

あ　と　が　き

書き進めれば書き進めるほど、先生方の「あれも書いて欲しい」「あれも説明して欲しい」という声が聞こえてきそうであった。それほど、この英語指導助手の効果的な活用については、手探りの状態が続いているのである。

先生方の、「折角の外国人教師なんだから、何とかして効果的に活用したいものだ」という声に押されてこの本を書き始めたが、書き足りない点、書き落とした点が多々あろうことにはご容赦いただきたい。機会があれば引き続き書いてみたいとも思っている。

実際に学校で英語指導助手たちと直接接している先生方からは、たくさんの示唆をいただいた。3人の協力員の方々のお名前を記させていただくが、ほかにも多くの方々から助言をいただいた。県教委の職員の方々には法令の解釈でたびたびお世話になった。また、関係官庁には問い合わせを重ねること多数に及んだ。

また、調査に協力くださった市町村教育委員会やその英語指導助手の皆さんにも感謝申し上げます。また、さまざまなインタビューに応じてくださった県下の英語指導助手の皆さんにも感謝申し上げたい。こうした人々の協力なくして、この双書の出版はなかったからである。

〔執筆 者〕 吉田 博 新潟県立教育センター指導主事

〔研究協力員〕 山田 寛悟 県立新潟向陽高等学校校長
(前県立柿崎高等学校校長)
水荃 芳英 県立糸魚川高等学校教諭
(前県立六日町高等学校教諭)
神田 利明 県立新潟東高等学校教諭